

ボーリングコアの高精度解析にもとづく濃尾平野沖積層の堆積プロセス

Depositional Process of Holocene sediment based on boring core analysis at Nobi Plain, Central Japan

大上 隆史[1]; 須貝 俊彦[2]; 藤原 治[3]

Takashi Ogami[1]; Toshihiko Sugai[2]; Osamu Fujiwara[3]

[1] 東京大・新領域・環境学; [2] 地調・地震・活断層研; [3] サイクル機構

[1] Natural Environment Studies, Univ. of Tokyo; [2] Active Fault Lab., Geological Survey of JPN; [3] JNC

濃尾平野は代表的なデルタ卓越型沖積平野であり、堆積速度が非常に速いことが知られている。また、濃尾平野は LS (下部砂層), MM (中部泥層), US (上部砂層), TM/TS (最上部砂泥層) といった沖積層の一般的な層序の模式地でもある。しかし、濃尾平野においてオールコアボーリングは数えるほどしか掘削されておらず、特に平野中央部以北ではほとんどオールコアボーリング試料を用いた研究が行われてこなかった。演者らは 2003 年、2004 年に濃尾平野において合計 5 本のオールコアボーリングを掘削した。掘削地点は大垣 (AN-1), 海津 (KZN), 尾西 (SB), 祖父江 (KM-1), 清洲 (NK-1) であり、これらは濃尾平野における完新世の海成シルト層 (MM) の分布範囲をほぼカバーする。

オールコアボーリング試料に対し岩相、粒度分布、TOC/TN、帯磁率、土色、密度、元素含有量などが分析された。さらに高密度・高精度な年代測定により、堆積曲線が得られた。粒度分布はレーザー回折式粒度分析装置を用いて 5cm 毎に分析されており、堆積曲線と照らし合わせることで堆積プロセスが定量的に検討される。